

# 主要計数の推移および活動の状況

2025年度 事業報告 補足資料

自2025年4月1日 至2026年3月31日



一般社団法人

**日本自動車連盟**

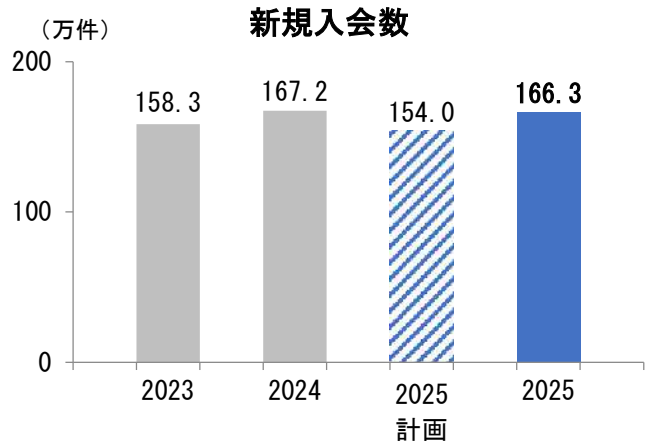
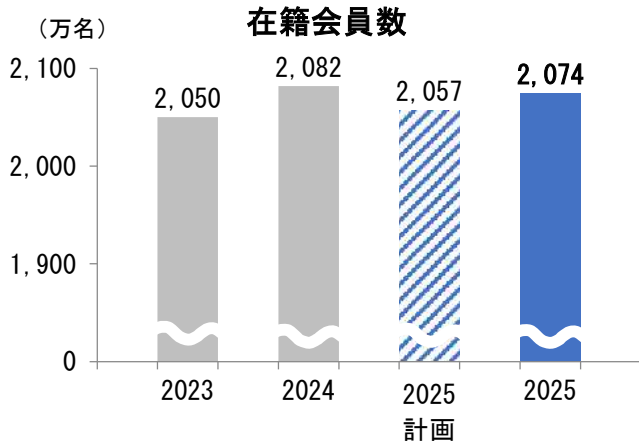
# 目次

1	主要計数等の推移 .....	1
2	活動の状況 .....	2
(1)	会員 .....	2
(2)	交通環境啓発活動 .....	2
(3)	ロードサービス .....	8
(4)	会員サービス .....	10
(5)	モータースポーツ .....	10
(6)	国際活動 .....	12
(7)	広報・マーケティング活動 .....	13
(8)	人事と組織 .....	15
(9)	情報システム .....	18

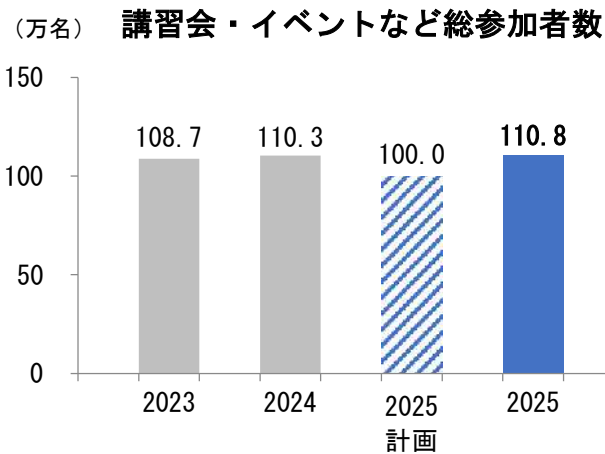
# 1 主要計数等の推移

※ 棒グラフ上部の値は、表示単位未満を四捨五入して記載

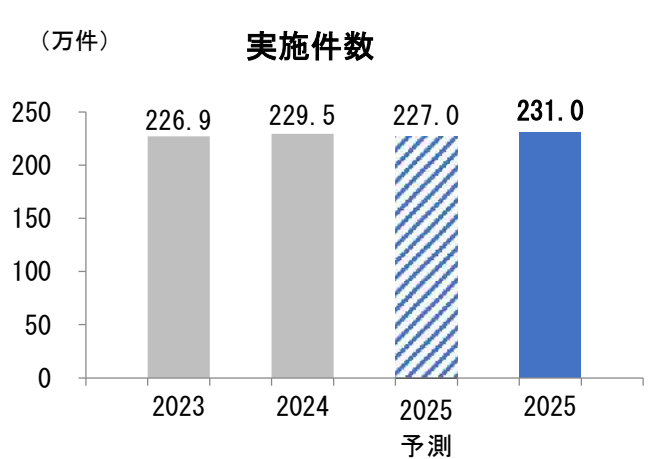
## (1) 会員



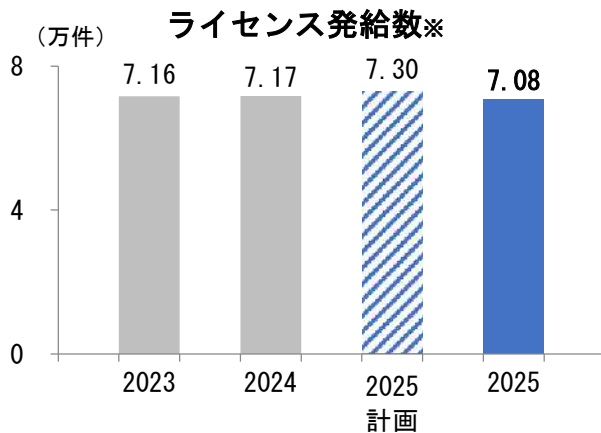
## (2) 交通環境啓発活動



## (3) ロードサービス



## (4) モータースポーツ



※ 発給期間：2025年1月～2025年12月

## 2 活動の状況

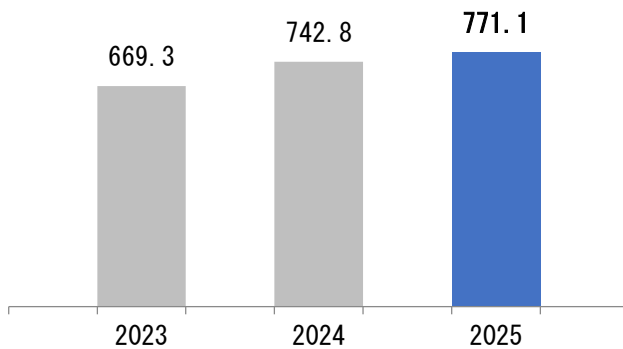
### (1) 会員

#### ① JAFスマートフォンアプリの登録および利用促進

JAFスマートフォンアプリ（以下、JAFアプリ）登録者に対し、抽選でデジタルギフトが当たるキャンペーンを実施し、利用メリットを促進

- ・ JAFアプリのユニークユーザー（UU数※）は2,728.2万名（前年比106.0%）
- ・ アプリクーポン利用数は454.3万名（前年比121.0%）

JAFアプリ登録数（万件）



※ UU数：月間ユーザー数を累計した数値



クーポン利用促進キャンペーン（2月2日～2月28日）

### (2) 交通環境啓発活動

#### ① あらゆる年齢層の交通参加者に対する交通安全啓発

ア 子どもの命を守る取り組み

(ア) イオンモール水戸内原にて「チャイルドシート使用普及キャンペーン2025」※を開催

- ※ 共催：JAF、科学警察研究所、公益財団法人交通事故総合分析センター、ブリティッシュコロンビア大学教授
- 協力：チャイルドシートメーカー、水戸市、茨城県警、水戸警察署、茨城トヨタ自動車株式会社



戦隊ヒーローによる交通安全ショー



会場の様子（イオンモール水戸内原）

(イ) アンケート回答でチャイルドシートなどが当たるプレゼントキャンペーンを実施



キャンペーンの告知バナー

(ウ) 株式会社イオンファンタジーと協働し、交通安全意識を啓発する教室などを開催



ちきゅうのにわ幕張新都心店(千葉)



スキッズガーデン熱田店(愛知)

## イ 協働活動

(ア) 健康面で安全運転を支援する取り組みを、一般社団法人日本作業療法士協会との協働で全国開催

- ・ イベント会場では、運転行動チェックリストを用いた不安の解消や、座ってできるドライビングストレッチの体験など、各都道府県の協会と連携し、さまざまなコンテンツを提供

時期	内容	主催支部
4月	春の交通安全運動イベント（於：テラスモール松戸）	千葉支部
9月	未来構想プロジェクト「JAF診療所」の活動の一環として開催	山口支部



千葉支部と千葉県作業療法士会の協働イベント



山口支部と山口県作業療法士会の取り組み

(イ) JAFと独立行政法人自動車事故対策機構（ナスバ）は、両組織のより効果的な事業推進力向上を目的とした協働体制を2024年12月より開始

- ・ 支部主催イベントや外部イベントへの共同出展など、両組織の経営資源を有効活用した活動を展開

時期	内容	主催支部
9月	運転診断シミュレーター （於：JAFデー&オートテスト in 高知新港）	高知支部
3月	運転診断シミュレーター（於：モータースポーツフェスティバル）	香川支部
3月	動力視力検査（あいちこうあんフェス2026）	愛知支部



あいちこうあんフェスの様子（愛知）



モータースポーツフェスティバル（香川）

ウ 社会のニーズをとらえたJAFユーザーテストの実施

時期	タイトル	内容
4月	走行速度で燃費はどう変わる？～速度が燃費に与える影響を徹底検証～	燃料価格が高騰している中、ガソリン代に直結する燃費に注目し走行速度や走行距離による燃費の変化を検証
7月	冠水路走行テスト～電気自動車（EV）・ハイブリッド車（HV）・ガソリン車で検証～	台風や豪雨などにより、車両が冠水路に進入した場合に発生するおそれのある不具合や、車内の安全性を検証するため、ガソリン車・ハイブリッド車・電気自動車を用いてテスト
10月	路上寝込み事故～人間と認識できない？～	路上で横たわっている人が車にひかれる「路上寝込み（路上横臥（おうが））事故」による死者は年間約100名（ほとんどが夜間に発生し、ドライバーの発見が遅れる場合や、人とは認識せずにひいてしまうケースが考えられる）こうした状況を踏まえ、3名のモニターが夜間の視認性について検証
JAF Ma t e 冬号	「急ブレーキ」踏めますか？時速40kmからのフルブレーキで検証	運転中の飛び出しなどの緊急時を想定し、12名のモニターに急ブレーキを踏んでもらい、どれくらいの距離で停止できるか、またインストラクターによる指導のあとで停止距離は短くなるのかを調査



冠水路走行テストの様子



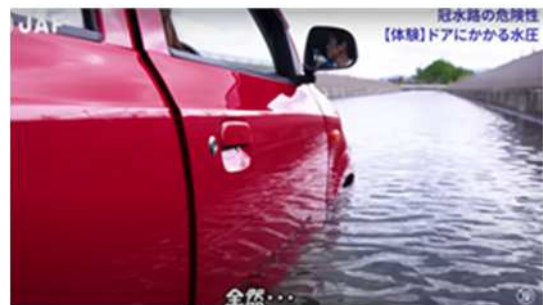
路上寝込み事故テストの様子

エ 交通安全啓発動画の公開

(ア) ユーチューバーの木村亜美氏と制作した動画「教えて！JAF先生」シリーズとして、6月に「冠水路の危険性編」、10月に「路上横臥の危険性」をYouTube公式アカウントの「JAF Channel 1」に公開



冠水路の危険性編（6月公開）



冠水路に侵入した車（動画内切り抜き）

(イ) さまざまな交通シーンの中で起こしやすい交通違反や、発生しやすい交通事故の防止を目的とした交通安全啓発動画「実写版危険予知・事故回避トレーニング」の「自転車編」2本を9月にコーポレートサイトに公開



自転車編（横断歩道付近の危険）



自転車編（交差点進入時の危険）

(ウ) 危険なシーンや特殊な交通状況を疑似体験できる 360 度 VR 動画の「トラック編」3 本を 3 月にコーポレートサイトに公開



トラック編（運転席からの死角）



トラック編（右折時の死角）

オ チャイルドシート使用・シートベルト着用状況全国調査

(ア) 5 月 10 日～6 月 14 日に警察庁と合同で「チャイルドシート使用状況全国調査」を実施

- ・全国 99 箇所調査の結果、6 歳未満の子どもの使用率は 82.4%（前年比 4.2 ポイント増）となり過去最高
- ・「チャイルドシート取付け状況調査」では、自動車に正しく取り付けられていたのは 74.8%（前年比 5.0 ポイント増）、正しく着座していた子どもは 55.6%（前年比 0.1 ポイント減）
- ・腰ベルトの締付け不足やハーネスの締付け不適正など、取付けや着座時の課題を確認
- ・調査結果はニュースリリースにて発信し、不使用時や間違った取付け・着座による危険性を周知



チャイルドシート使用状況調査結果（6 歳未満全体）



チャイルドシート使用状況調査結果（年齢層別）

(イ) 10 月 6 日～11 月 7 日に警察庁と合同で「シートベルト着用状況全国調査」を実施

- ・運転席の着用率は、一般道路で 99.1%（前年比 0.1 ポイント減）、高速道路などで 99.6%（前年同値）、助手席においてもそれぞれ 96% を超える
- ・後部座席のシートベルト着用率は、一般道路で 45.8%（前年比 0.3 ポイント増）、高速道路などで 79.9%（前年比 0.2 ポイント増）と、後部座席の着用率は依然として低い



一般道路における着用率の推移

カ 信号機のない横断歩道での歩行者横断時における一時停止状況全国調査

8月6～28日に信号機のない横断歩道（全国94カ所）で調査を実施

- ・全国の一時停止率は56.7%と、前年度に比べ3.7ポイント増加し過去最高
- ・35の都道府県で停止率が上昇するなど増加傾向
- ・いまだに4割以上の車が停止していない状況

北海道	青森県	岩手県	宮城県	福島県	秋田県	山形県	新潟県	長野県	茨城県	栃木県	群馬県
38.1%	50.4%	67.2%	62.1%	74.5%	55.1%	55.8%	57.0%	88.2%	44.2%	67.8%	59.8%
埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	山梨県	富山県	石川県	福井県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
47.9%	48.4%	44.2%	62.8%	65.3%	60.9%	70.3%	35.8%	78.0%	67.2%	48.9%	66.4%
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県
72.9%	53.6%	35.5%	67.9%	64.3%	41.5%	62.6%	58.9%	66.9%	61.6%	34.3%	46.1%
香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	全国
46.0%	66.7%	54.8%	77.7%	50.6%	50.6%	77.4%	38.6%	76.5%	53.2%	36.9%	56.7%

2025年 信号機のない横断歩道における車の一時停止率（全国）

キ ボランティアによる交通安全活動

（ア）安全で円滑な道路交通環境を整備するため、「交通安全実行委員会」を全国で計60回開催

- ・交通安全対策が必要な道路や分かりにくい標識・標示に関して寄せられた改善要望は543件
- ・うち、223件を関係機関に提出
- ・以前から要望している案件を含め、141件の改善を確認

※ 前年度：改善提案 352件、交通安全実行委員会 68回、改善要望 251件、改善確認 43件



改善前：右折矢印信号機がないため、右折レーンに車両が停滞し、直進車両が進めない状況



改善後：右折矢印信号機が設置され、交通の流れがスムーズになった

（イ）JAF交通安全ドレミぐるーぷ

音楽演奏（演劇・紙芝居など含む）などを通じて幼児に交通ルールを守ることの大切さを伝える活動

「JAF交通安全ドレミぐるーぷ」の公演を134回開催、参加者数は13,392名



音楽演奏で交通ルールを学ぶ様子



横断歩道の渡り方を学ぶ園児たち

- ク サブスクリプションサービス「JAF交通安全トレーニング」（交通安全eラーニング事業）  
 ・導入企業は、116社と前年度にくらべ51社増加



毎日学習できる教材バリエーション



配信教材画面（イメージ）

## ② 2025年度自動車税制改正に関する活動

### ア 自動車税制に関するアンケート調査

- ・4～8月、自動車ユーザーを対象にアンケートを実施し、回答者数は154,341名
- ・回答者のうち、98.8%が自動車に課せられている税金に負担感

### イ 自動車ユーザーへの広報活動（街頭活動など）

- ・5～9月、イベント参加者などを対象に「自動車ユーザーの生の声を集める活動」を全国各支部で実施
- ・収集した意見は、国会議員や省庁への要望書の提出、コーポレートサイトでの公開、日本自動車会館での展示などさまざまな広報活動に活用

### ウ 「JAF税制対策委員会」の開催

- ・アの結果を受け、9月12日にJAF税制対策委員会を開催し、「2026年度税制改正に関する要望書」を取りまとめた

### エ 国会議員・関係省庁などへの要望活動

- ・自動車ユーザーの税負担軽減を目指し、各支部では国会議員に対する要望活動や税負担軽減を訴える街頭活動を全国で展開
- ・JAFの創立以来、長年にわたり自動車関係団体とともに自動車税制改正に取り組んできた結果として、ガソリン税の暫定税率が12月31日に廃止
- ・軽油引取税の暫定税率および環境性能割についても廃止



国会議員への要望活動（左から二人目：片山財務大臣）



街頭活動の様子（旭川支部）

## ③ 社内インストラクター教育への取り組み

- ア 11月、外部研修による実技・座学講習を通じて、交通安全推進団体の職員として求められる運転の安全性・確実性を高め、交通事故防止に活かすための研修を実施
- イ 2月、交通環境担当者が外部研修や内部研修を通じて学んだことを職員間で共有し、交通安全講習会や調査活動の充実を図るための研修を実施

- ・ 1 日目：運転に必要な基本知識を改めて確認するとともに、受講者の感情に寄り添うための具体的な対応を学習
- ・ 2 日目：1 日目の学びをもとに、普段の公道における運転姿勢を実車にて確認するとともに、座学講習にて運転者教育における心構えを学習
- ・ 3 日目：チャイルドシートメーカーによる座学・実技研修を実施



研修 1・2 日目の様子



研修 3 日目の様子

### (3) ロードサービス

#### ① ロードサービス競技大会の一般公開

ロードサービス隊員の専門技術と対応力を広く一般に発信し、業務への理解や価値体験、ブランド力の向上、ファン層の拡大をはかる取り組みとして、「ロードサービス競技大会」を公開形式で開催

	開催日	開催日・場所
準決勝	9月16～17日	JAF中央研修センター (東京)
決勝	10月11日	富士スピードウェイ (静岡)



決勝戦で優勝した関西本部の実演

#### ② 災害および降雪期に向けた取り組み

##### ア 熊本県豪雨災害における特別支援隊の活動

- ・ 8月11～28日の18日間にわたり、熊本県で発生した豪雨災害への支援として、のべ246名の特別支援隊を派遣
- ・ 期間中、県内での総実施件数3,182件のうち、特別支援隊による実施件数は574件



特別支援隊による救援作業（熊本）



## イ 降雪期における救援体制強化に向けた特別支援隊の活動

- ・1月5日～3月5日にわたり、北海道における降雪にともなう救援要請の増加に対応するため、札幌支部にのべ20名、旭川支部にのべ4名を派遣
- ・期間中、特別支援隊による救援実施件数は1,759件



特別支援隊による救援作業（北海道）

## ウ 災害即応チーム設置に向けた対応

- ・災害発生時に迅速な初動対応をにやう専門チーム「JAF - FAST」※を特別支援隊内に設置し、発足に向け準備
- ・発災後12時間以内に現場へ出動し、緊急交通路を確保し、被災車両を排除することで、地域復旧のスピード向上をはかる
- ・専用の災害支援車は現在、東京都に1台配備（2026年度以降順次導入し、全国8地方本部へ配備予定）

※ JAF - FASTの発足は2026年5月に実施



JAF - FAST専用災害支援車



## ③ BEVへの対応

- ・BEV（バッテリー式電気自動車）特有のトラブルである電池切れに対応するため、2023年度に4都府県（東京都、神奈川県、愛知県、大阪府）で「BEV充電サービス」の実証実験を開始
- ・12月より全国47都道府県へ対象を拡大
- ・サービスカー稼働台数は58台



ポータブル充電器を搭載したサービスカー

## ④ 救援要請手段の多様化

- ・JAFアプリやウェブサイトからの救援要請の利用を促進
- ・救援要請手段の多様化を進め、電話受付件数や受付時間を削減し、応答率を改善することで、現場到着時間の短縮をはかる

### ▼ポイント

#### 車両情報の事前登録

JAFアプリには、車両情報を登録する機能があります。

あらかじめ登録しておくことで、救援要請時に「車両名称」「色」「車両番号」を簡単・確実に伝えることができ、到着時間の短縮につながります。



## (4) 会員サービス

### ① 楽しく快適なカーライフを目指した会員サービス・情報の提供

J A Fナビドライブ情報ページにて、秋に実施した「支部選定のエリア別おすすめスポット」特集に関する投票およびアンケートの回答でトミカが当たるキャンペーンを実施

- ・アンケート集計結果を報告
- ・1月15日～3月31日の掲載企画における結果報告ページUU数：45,225UU



キャンペーン結果報告バナー

### ② 地域の特性を活かした会員優待・イベントの実施

全国の自治体や観光協会と連携し、ドライブスタンプラリーや各種イベントを企画・実施

- ・イベント実施件数は434件、参加者満足度は89.2%、イベント参加推奨度は92.6%



芋ほり体験（東京都西多摩郡、協力：一般社団法人日の出町観光協会）



海鮮丼のミニチュアストラップ作り（静岡県焼津市）

## (5) モータースポーツ

### ① 各種専門部会の開催および競技会審査委員の派遣

- ・12種類のモータースポーツ専門部会および各部会に属する作業部会を合計57回開催
- ・全日本選手権競技会の61競技会に対し、審査委員を152名派遣

### ② モータースポーツにおける安全性向上への取り組み

- ・9月25～27日、愛知県豊田市内でF I A世界ラリー選手権（WRC）「フォーラムエイト・ラリージャパン2025」の競技運営者らを対象とする「マーシャルトレーニング」が開催され、J A Fの公認審判員資格を持つ競技オフィシャル、マーシャルおよびマーシャルサポーターなど61名が受講



マーシャルトレーニング参加者

主催：F I A（国際自動車連盟）・J A F（日本自動車連盟）



トレーニングの様子

### ③ F I A（国際自動車連盟）世界選手権の開催

以下の競技会が開催された

開催日	競技会名	場所
4月3～6日	2025 F I A フォーミュラ1世界選手権シリーズ 「F1日本グランプリ」	鈴鹿サーキット
5月16～18日	F I A フォーミュラE世界選手権 「東京E-Prix」	東京ビッグサイト 周辺特設コース
9月26～28日	F I A 世界耐久選手権 「富士6時間耐久レース」	富士スピードウェイ
11月6～9日	F I A 世界ラリー選手権 「ラリージャパン」	愛知県・岐阜県
3月26～29日	2026 F I A フォーミュラ1世界選手権シリーズ 「F1日本グランプリ」	鈴鹿サーキット

### ④ Eモータースポーツの普及拡大

9月26～28日にスリランカで開催された「Asia Pacific Motorsport Championship 2025」にて、日本代表として参加した武藤壮汰選手がEスポーツ部門で優勝



表彰式の様子

### ⑤ 連携したモータースポーツの普及促進に向けて

#### ア モータースポーツのすそ野を拡げる取り組み

- ・ヘルメットやグローブを必要とせず、自家用車両で参加できる競技のオートテストにおいて、日本自動車販売協会連合会東京支部の親睦イベントとして開催
- ・山形県尾花沢市の協力を得て、廃校の小学校校庭でダート走路のオートテストを開催



自動車販売店の敷地を利用したコース  
(7月、東京都江東区)



廃校の小学校校庭を利用したコース  
(7月、山形県尾花沢市)

#### イ モータースポーツ振興に向けた大規模イベントの開催

- ・「JAFモータースポーツジャパン2026 in 横浜」を、3月21～22日に開催（入場者数：53,050名）
- ・未来のファン層を育成するため、特に若年層や家族連れを対象とした体験型コンテンツを充実



神奈川県横浜市・山下ふ頭での開催は2回目



## ⑥ F I A総会において世界モータースポーツ評議会委員に選出

12月9～12日にウズベキスタン・タシケントでF I A総会が開催

- ・ F I A会長およびその他のF I A組織委員の任命・選挙において、モハメド・ベン・スレイエム氏が、F I A会長に再選
- ・ 村田浩一モータースポーツ部長が、世界モータースポーツ評議会委員に選出



集合写真



ベン・スレイエム氏（写真中央）が会長再選

## （6）国際活動

### ① 海外クラブへの講師派遣

シンガポール自動車協会からの依頼により、9月6日にシンガポールで開催された「Overseas Safe Driving Forum 2025」に講師を派遣

- ・ 来日して運転する可能性のある方々を対象に、歩行者保護、雪道運転時の注意点などについて講演
- ・ 意見交換の中で困りごとやニーズなどの情報を収集



J A F講演の様子

### ② F I A地域Ⅱアイデア・フォーラム&事業計画セッションの開催

11月12～13日、J A F本部（東京・港区）にてF I A地域Ⅱ（アジア・太平洋地域）の各国自動車クラブ代表が参加するアイデア・フォーラムおよび事業計画セッションが開催

- ・ 2022～2025年の地域Ⅱ活動を振り返り、2026～2029年は「観光」「収益確保」「国際運転免許証（I D P）」「交通安全」を重点テーマとする方針が決定
- ・ 会議後は、交通管制センターおよび東京支部港基地を視察



参加者



グループディスカッションの様様

### ③ 新たな交通社会を見据えた調査研究と啓発

外国人に日本の交通ルールを分かりやすく伝えるショート動画5本（やさしい日本語・英語・中国語・ベトナム語字幕付）を制作し、10月にコーポレートサイトおよびY o u T u b eチャンネルで公開

- ・ 関東スタッフ協同組合（特定技能外国人および外国人技能実習生の受け入れ支援団体）に製作協力

- ・動画でとりあげるべき交通ルールについて外国人スタッフから意見を聞き、動画にも出演協力



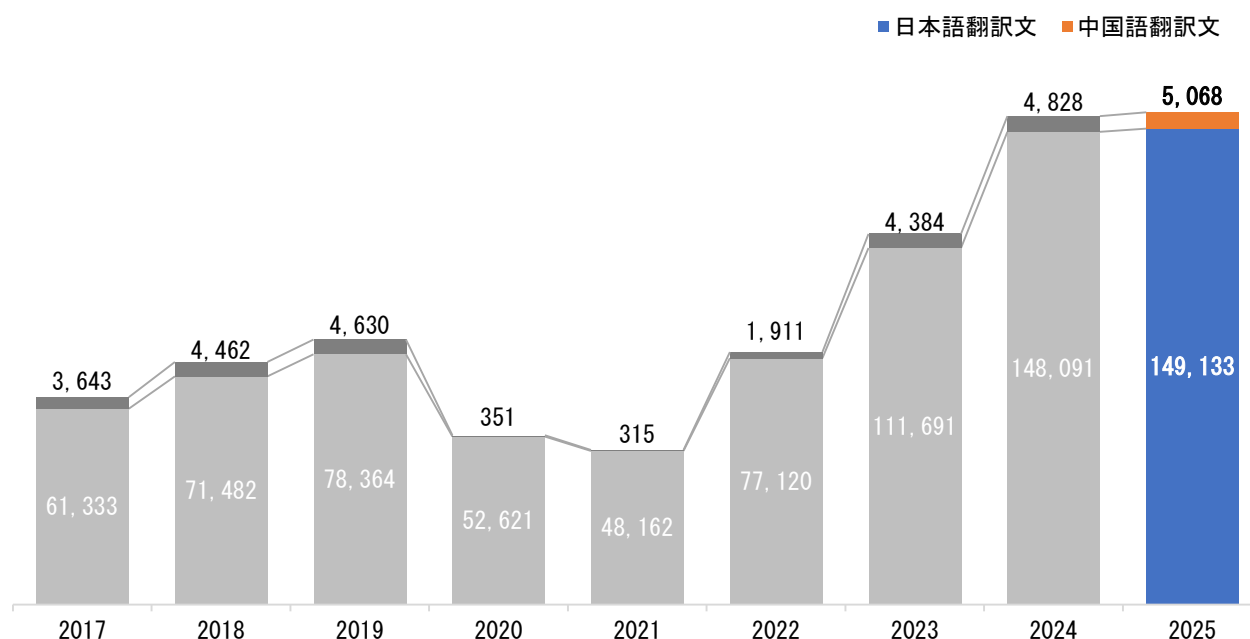
関東スタッフ協同組合での聞き取り



ショート動画イメージ

#### ④ 運転免許証の翻訳

運転免許証の翻訳文発行件数の推移（単位：件）



## （7）広報・マーケティング活動

### ① 顧客の声をサービス改善に活かす取り組み

マーケティングの観点からお客様の声を継続的に収集し、サービス向上や経営改善を推進

項目	内容
イメージ調査	・ 会員を対象に、ウェブアンケートでJAFのイメージを調査。回答数 10,607 名のデータから「好意度」「会員継続意向」「入会推奨意向」「探求意向」「応援意向」「幸福度」などを測定し、ブランド戦略立案の基礎資料として活用
ユーザーインタビュー 会員満足度調査	・ イベントブース出展時に、サービス利用状況や年会費の妥当性についてインタビュー ・ サービスや活動が会員継続の動機に与える影響を確認するための調査 ・ 会員 72,316 名からの回答やご意見をもとに、サービス改善に活用
新規事業創出に向けた顧客ヒアリング	・ 新規事業アイデアの想定顧客を対象にヒアリング ・ 顧客の声をもとに仮説検証とアイデアの改善に活用
会員優待サービス・イベント満足度調査	・ 魅力的で会員満足度の高い会員サービスを提供し会員継続率向上につなげる調査 ・ 「会員優待やイベントの認知拡大」「入会 1 年目会員への認知向上施策強化」「デジタル媒体での発信強化」などの課題を確認
総合案内サービスセンター・ロードサービスコールセンター・各支部	・ 現場の最前線であるコールセンター・支部に寄せられたお客様の声を収集し、関係部署へ共有、具体的な改善を検討
ファンベース施策	・ JAFファンとの対話・共創による会員満足度向上施策を企画・実施

## ② モビリティ・レジリエンス・アライアンス

### 車両の寄付

- ・災害時にもクルマに困らない社会づくりの支援のため、一般社団法人日本カーシェアリング協会に社用車を3台無償提供（4月：山形支部、9月：新潟支部、2月：徳島支部）
- ・これまでに同協会に寄付した車両は、合計20台



新潟支部寄付車両



山形支部寄付車両

## ③ 各種イベントへのPRブース出展

モータースポーツの振興、およびJAFの諸サービス認知向上を目的に、PRブースを出展



**2025 F1 日本グランプリ**（4月 鈴鹿サーキット）  
JAF会員向け抽選会、ドライビングシミュレーターによる鈴鹿サーキットのコース走行体験、eスポーツ体験、スロットカーレースなどを出展



**スーパーGT第2戦**（5月 富士スピードウェイ）  
モータースポーツに関するクイズラリー、ラリー競技車両の展示、レーシングカーの乗車体験、写真撮影スポットなどを出展



**フォーミュラE東京**（5月 東京ビッグサイト）  
溝（スロット）に沿って走る電動ミニカーを用いたレース体験イベントを展開。参加者はVRゴーグルを装着し、レースドライバーさながらの迫力ある映像を体験



**ジャパンモビリティショー**（10月 東京ビッグサイト）  
災害即応チーム「JAF - FAST」の車両を初展示し、ステージで災害支援活動をアピール。SNS企画では、約2,000名が出展内容を発信



**ラリージャパン 2025**（11月 豊田スタジアム西イベント広場）  
ラリーカーの運転シミュレーター、ジュニアライセンス発行、会員限定抽選会、歴代ラリーカーのミニチュアなどを出展



**第23回JAF鈴鹿グランプリ**（11月 鈴鹿サーキット）  
ドライビングシミュレーターによる鈴鹿サーキットのコース走行体験、ジュニアライセンス発行、会員限定抽選会やJAFアプリクーポン企画などを出展



2026 F1 日本グランプリ（3月 鈴鹿サーキット）  
和をイメージしたブースデザインを採用し海外来場者への訴求を強化。約3,000名がJAFアプリにて車両登録。SNS企画では約900名が発信



東京モーターサイクルショー（3月 東京ビッグサイト）  
2輪アタッチメント展示でバイクもJAFをPR。約1,800名がJAFアプリにて車両登録。SNS企画では約600名が発信

## （8）人事と組織

### ① 採用の強化および働き手のエンゲージメント向上

「従業員が健康であってこそ、モビリティユーザーへ安全と安心の支えとなるサービスを提供できる」という理念のもと、全社で健康経営を以下のとおり推進

- ・ 卒煙プログラムの導入やがん検診への補助など疾病予防に注力し、健康診断は受診率 100%
- ・ 適性体重維持者率向上のため9月、全従業員を対象に「守ろう肝臓」をテーマにeラーニングを実施
- ・ 前年度、管理職向けに実施した「女性の健康」eラーニングを、10月に全従業員向けに実施
- ・ 10月上旬から約2か月にわたり、運動機会の増加とコミュニケーションの促進を目的に、アプリを利用した全従業員対象の全国ウォーキング大会を開催し、前年度を上回る733名が参加
- ・ 健康保険組合連合会東京連合会主催の「健康優良企業認定」において「銀の認定」を3年連続受賞
- ・ 経済産業省と日本健康会議が選定する「健康経営優良法人認定制度」において「健康経営優良法人（大規模法人部門）」に4年連続認定

### ② 人的資本への投資

人的資本価値の最大化や経営戦略の実現を目的に、自律した人材の育成と新たな挑戦をするボトムアップの組織風土醸成に向け、以下の研修を実施

研修名	概要
管理職に対する研修	・ 風土の醸成には日々職員と接する管理職のマネジメントスキルが重要なため、管理職向けにマネジメント力強化研修を実施し298名が参加
事務所長等研修	・ 個人や組織の強みや可能性に注目し、ポジティブ・アプローチによりチーム内の連帯感を高め、組織全体の士気を向上させることを目的に、事務所長および事務所次長60名に実施
フォロワーシップ研修	・ 組織風土の変革を加速させることを目的に、フォロワー型リーダーシップ研修として実施 ・ 次期管理職候補である係長・主任クラスの職員145名が参加 ・ サブリーダー・班長クラスにも対象を拡大し、80名が参加
クレーム対応研修（新設）	・ クレーム対応が年々複雑化している中、エスカレーション対応をにう2次対応者※を対象とした研修として全社横断で職種の壁を越えて実施 ・ 対面とオンラインのハイブリッド形式で、全国から64名が参加
OJT担当者研修	・ 新入職員の定着や離職防止に重要なOJTに関して、部門全体で新入職員を育て支える体制づくりを目指し、全国統一で研修を実施 ・ 管理職は若手社員の特性や育成計画の立て方についてオンライン研修参加 ・ OJT担当者は地方本部の会議室で、講師および事務局とのワークショップ形式で指導方法などを学習
入社5年次研修	・ これまでの経験を振り返り、組織の中における今後の自分自身のあり方を考える研修を11月に2回実施し、68名が参加

研修名	概要
	・ 基本理念について学び、それを自身のキャリアビジョンと重ね合わせる時間を設定
入社3年次研修	・ 5～6月に3回実施し、96名が参加 ・ 基本理念について学び、それを自身のキャリアビジョンと重ね合わせる時間を設定
新入職員養成研修	・ 全新入職員を対象としたマナー研修、仕事の進め方、会社理解研修など実施 ・ 全新入職員がロードサービスの基礎を学習 ・ ロードサービス職を対象にロードサービスの基礎的な技能を習得するための研修を実施
新入職員フォローアップ研修	・ 入社後6か月を経過した新入職員が抱える業務上の課題や悩みを共有し、解決をはかるとともに、中長期的なキャリア形成を支援することで、モチベーションの向上を目指すため、10月にオンラインで実施

※ コールセンターのリーダー、基地主任、主管、係長など

### ③ 地域社会との対話を通じた課題解決の推進

地域の人々との対話や共創を通じて課題解決に取り組み、社会（地域・顧客）に貢献する活動「支部のあり方・未来構想プロジェクト」を、各地方本支部が以下のテーマにて活動

	支部	活動テーマ	カテゴリー	
北海道	札幌支部	小学生の交通事故死傷者数減少	⑦子育て支援	
	旭川支部	士別市の知名度向上、観光入込数と交流人口拡大による地域経済の活性化	③人口・移住	
	帯広支部	十勝川温泉の観光誘致の取り組み～モール温泉の魅力を発信	②観光	
	釧路支部	自動車と野生動物（エゾシカ）との衝突事故の減少	⑨自然環境	
	函館支部	江差町における、日本遺産を活かした、計画的な観光振興への取り組み	②観光	
	北見支部	人口減少が進んでいる美幌町の魅力を発信し、移住定住者を増やしたい	③人口・移住	
東北	青森支部	地域活性化と農林水産業の未来をつなぐ：若者就労促進と情報発信への挑戦	③人口・移住	
	岩手支部	「岩手つながみの食プロジェクト」もったいないをなくす 廃棄ゼロと支援の輪	⑨自然環境	
	宮城支部	東日本大震災の伝承活動の活性化	⑧防災	
	秋田支部	健康寿命延伸のための口腔ケア推進活動	⑤健康	
	山形支部	移住希望者が抱く自動車へのネガティブイメージを払拭し、移住につなげる	③人口・移住	
	福島支部	学生の自転車利用時の事故発生および交通ルールの順守	①交通安全	
	関東	茨城支部	水戸はよかつプロジェクト！～水戸市を中心とした交通の利便性や魅力度向上	⑩移動・車全般
		栃木支部	徘徊行方不明者や身体機能の衰えと転倒による交通事故の懸念	⑤健康
群馬支部		旧倉淵村（高崎市）の観光客・交流人口誘致 ～倉淵村を周遊しよう～	③人口・移住	
埼玉支部		埼玉県内の生活保護世帯・生活困窮世帯の子どもたちをサポート	⑦子育て支援	
千葉支部		「危険を予測し、自ら回避できる思考力・判断力を持った安全な未来を創ることができる子どもの育成」への協力	⑦子育て支援	
東京支部		外国人の交通問題～ Comfortable Tokyo～	⑩移動・車全般	
神奈川支部		消滅可能性から三浦市を救え！	②観光	
新潟支部		持続的な公共交通機関（バス）の維持につながる活動	⑩移動・車全般	
山梨支部		ハンデを持った方も安心して使えるくるま環境へ	④住環境	
長野支部		“ずくだせ長野！” 地元愛着形成 de 若年層県外流出 STOP	③人口・移住	
中部		富山支部	未来を守る交通安全プロジェクト「～for the future～ヘルメットをかぶろう」	①交通安全
		石川支部	チャイルドシート使用率の向上 ～脱『全国ワースト2位』～	①交通安全
		福井支部	「ふく育県を盛り上げ隊」～移住子育て世代の外出支援、移住・子育て環境整備	⑦子育て支援
	岐阜支部	ストップ（横断歩道）・アートプロジェクト	①交通安全	
	静岡支部	☆静岡県の人口減少 静岡市駿河区用宗への取り組みを成功させ、他地区へ展開	③人口・移住	
	愛知支部	豊田市稲武地区の住みやすさ向上	④住環境	
	三重支部	対話と共創 地域に根ざした交通安全活動・三重モデル！	①交通安全	
	関西	滋賀支部	滋賀県下の歩行者が安心して暮らせる地域・車社会の確立！	①交通安全
京都支部		事故防止！自転車につながる共生京都	①交通安全	
大阪支部		親子で学ぶ自転車の交通安全	①交通安全	
兵庫支部		震災に強い兵庫県を実現する	⑧防災	
奈良支部		伝統野菜「大和野菜」をもっと多くの人に知ってもらおう！	⑥地産地消	

	支部	活動テーマ	カテゴリー
	和歌山支部	横断歩道での停止率を高めて安全意識を向上させ、事故を減少!	①交通安全
中国	鳥取支部	～A I X走行データ×地域の力で作る～ 高齢者を守れ!「SAFE TOWN DRIVE 鳥取」	①交通安全
	島根支部	インバウンド向け体験型イベントによる地域活性化	②観光
	岡山支部	ふらっと吹屋、ずっと吹屋プロジェクト ～あの赤い街並み、知っとる? みんなで守ろう、吹屋のええところ。～	②観光
	広島支部	地域防災への取り組み	⑧防災
	山口支部	「JAF診療所」～高齢ドライバーが健康で、安全に、そしてこれからも運転できる環境づくりを	⑤健康
四国	徳島支部	南海トラフ地震からの死者ゼロの実現を目指す	⑧防災
	香川支部	自転車の交通ルールやマナーについて改善していく	①交通安全
	愛媛支部	松山市内における自動車と二輪車(原付)の交通事故防止	①交通安全
	高知支部	eスポーツ活用による運転寿命延伸プロジェクト	①交通安全
九州	福岡支部	福岡市内中心部、渋滞などの交通課題の解決、自動車排出CO2の削減	⑩移動・車全般
	佐賀支部	災害に強い佐賀県を創る	⑧防災
	長崎支部	後部座席シートベルト着用率の向上	①交通安全
	熊本支部	阿蘇草原減少問題の抑止活動	⑨自然環境
	大分支部	外国人ドライバーによる事故トラブルの撲滅	①交通安全
	宮崎支部	農業従事者の減少と耕作放棄地の増加を改善する	⑨自然環境
	鹿児島支部	奄美ゼロードキルプロジェクト～奄美の野生生物の交通事故減少	⑨自然環境
	沖縄支部	やんばるの自然を守ろう～絶滅危惧種のロードキルをなくすこと	⑨自然環境

#### ・活動事例(埼玉支部)



基地で開催されたタイヤ交換・修理体験  
学習支援や体験機会提供の一環として提供



子ども食堂応援自販機  
購入商品1本につき1円を活動に寄付

#### ④ コンプライアンスに向けた取組み

社内交通事故防止推進チームによる研修

- ・職員の交通事故防止を目的に、有識者を交えた部署横断の専門チームが新たな実技講習「JAFドライビングコンテスト」を11月10～11日にテスト実施
- ・狭路走行や車庫入れなどの走行結果と評価をフィードバックし、安全運転ポイントで順位をつけるなどゲーム要素も導入



走行コース



対象者へのフィードバック



## ンを内製で開発

- ※1 プログラミングの深い知識がなくてもアプリケーションが作れる「ノーコード・ローコードツール」を活用して、自ら業務改善するためのアプリを開発する職員
- ※2 Robotic Process Automation の略称。PCでの事務作業を自動化できるソフトウェアロボット技術
- ※3 高度なプログラミングの知識や経験を必要としない最小限のコーディング（またはコーディングなし）で、ソフトウェアを開発するためのツール

以上